

あじさい 167号

もくじ

- 親あるうちの暮らし方
親なきあとの暮らし方
- 育成会ing
- 九州大会報告
- 育成会フォーラム報告
- バスハイク報告
- お知らせ

バスハイクに行ってきました！



育成会の恒例行事「バスハイク」が今年も実施されました。今年の行先は福岡県柳川市でした。柳川の街並み散策や水郷柳川の川下りを楽しみました。特に川下りは初めてという方が多く、ちょっぴり不安そうな顔で乗り込まれる方もいらっしゃいましたが、走り出すと周辺のきれいな景色や風を切って走る心地よさ、船頭さんの楽しいパフォーマンスでリラックスされ、皆さん笑顔になっていました。

(P7関連記事)

ボウリング大会開催！



育成会ボウリング大会が9月30日にラッキーボウルで開催されました。

今年の優勝は佐藤一朋さん、2位は中尾翔さん、3位は小森昭さんでした。みなさん精一杯のプレーを楽しんでおられました。

よかよか隊出動！



野母崎小学校へよかよか隊が出動しました。3, 4, 5年生を対象に話を聞いてもらいました。問いかけにも元気よく手を挙げて意見を発表してくれました。

親あるうちの暮らし方、親なきあとの暮らし方

10,11月の定例会のテーマとなった『親あるうちの暮らし方、親なきあとの暮らし方』ですが、いつもより多くの方にご参加いただき、やはり関心の高いテーマだと感じました。また先日、会員さんから「主人が病で臥せってしまい、50代の子の先行きが不安で…」というご相談の電話をいただいたこともあり、これまでも何度か取り上げたことがあるテーマですが、今年の総会の又村あおい氏のお話の内容も振り返りながら、再度考えてみることにしました。

親あるうちは…

多くの方は自分が元気な間は一緒に暮らしたいと言われます。中にはぎりぎりまで一緒にいたいと言われる方もいらっしゃいます。又村氏は平成28年の調査では65歳未満の療育手帳所持者の92%が親と一緒に暮らしており、65歳以上でも10%が親と同居していると言われていました。親が高齢になっても障害のある子とずっと一緒に暮らす理由として、『構造的な分ちがたさがある』と言われ、以下のように説明されています。

『構造的な分ちがたさ』が生じるわけは…

- ・親の年金と本人の年金・工賃で家族の生活を維持していて、どちらが先にいなくなっても生活が成り立たなくなるという経済的側面
- ・親は自分が本人を介助（声掛け誘導）し、本人は高齢化し心身の機能が低下した親を物心両面で介助し、双方が「自分がいなければ…」と考えている介助的側面
- ・長期に渡る安定した親子の在宅生活により、親と子の両方にこれでいいんだという「正常性バイアス」（「これは正常の範囲だ」と自動認識すること）が生じやすくなる心理的側面

親あるうちに…

親と暮らすことが悪いわけではありません。「親なきあと」の準備を「親あるうちに」しておくことが大切だと又村氏も話されていました。準備の一つは「お金」です。又村氏の試算ではグループホームに入居したとして、年金と工賃収入だけで生活するとすれば年間30万ほど不足するとのことでした。仮に40歳でGHに入居し80歳まで生きるとしたら40年間で1200万円の不足となります。（就労やA型に通う人は収入も大きくなるので、不足ではなくプラスになる人もいます）また病気になったりすればこれ以外にもっと必要になるでしょう。この不足分をいかに準備しておくかということが大切です。また、住まいの場はグループホームではなく入所施設や自宅を選択する方もおられるでしょう。その場合は当然準備しておくべき金額は変わってきます。まずは必要な収支を考えるとところから始めましょう。

収 入	障害基礎年金	
	給料・工賃	
	GH家賃補助	10000円
	合計	
支 出	サービス利用負担金	
	食費・光熱費・日用品費	33,000円
	家賃	20,000円
	小遣い・余暇費・被服費 通院費など	
	合計	

又村氏資料より：グループホームで暮らすことを想定した時の簡易的な収支表。ご自分のお子さんと試算してみてください。

※支出金額は育成会グループホームの平均値（食費は30日で計算）

親なきあとは…

福祉サービスと障害福祉サービスが一体となった住まいの場（親子で入居が可能）などを提供しているところもありますが、まだまだ少数です。入所施設では動きのある若い入居者が高齢の入居者にぶつかってケガにつながるような80代の入居者と20代の入居者が同じ空間で生活する際に起きる問題（8020問題ともいわれる）を指摘する声もあるそうです。グループホームは数が不足していると言われ、入居が必要なタイミングで空きがあるかどうかは分かりません。入所施設は地域移行の考えから、全国的には減少方向へと動いていますが必要とされている方も多くいらっしゃいます。

11月の定例会ではグループホームや入所施設についての質問も多く上がりました。みなさん漠然と先のことを考えてはおられますが、それぞれのサービスの内容については初耳のことも多かったようです。「グループホームに入居すると自宅開始のヘルパーさんは使えない」「入所施設を利用した場合、他の障害福祉サービスが使えない（ヘルパー利用や他事業所への通所はできない）場合が多い」「施設入所中は介護保険サービスの対象とならない」などの話が出ると驚きの声も上がっていました。制度は使いやすいものになるよう改善されていくものですが、使える条件があったり地域生活支援事業などは地域によって使えたり使えなかったりするものもあるため、わが子に合ったものを知るためにも情報集めは大切です。



相談支援の必要性・重要性



定例会では「親なきあとのことを考えて思うのは、いかに信頼できる事業所や職員さん、相談支援専門員さんと出会うことが大切だと思う」と話された方がおられました。

自宅で生活している人も、日中事業所に通い、休日はヘルパーを使ったり、時にショートステイを使うなど複数のサービスを使えるよう契約されている方は多いと思います。なによりそのサービスを使うためには計画相談が必要です。みなさんも新しいサービスの利用を考えると、事業所を移ることを考えるとき、先ず相談支援専門員さんに相談されると思います。又村氏も講演の締めくくりとして相談支援（計画支援）の重要性を強く話されていましたが、現在の仕組みでは複数のサービスを組み合わせて使う可能性が高く、本人に合う組み合わせや合う事業所を考える必要があります。そして市町村はサービス等利用計画書を見てサービス支給を決めるので、その計画書を作成する相談支援はとても大事になってきます。日ごろから本人や家族の困りごとや将来に向けた希望を一緒に考えてくれる相談支援専門員さんは今もこれから先も大切な存在です。一緒にライフプランを考えていけるよう、密な関係を築いていくことも親なきあとに大切なことではないでしょうか。



<育成会 ING>

障害者福祉懇談会が開催されました

11月21日(火)、令和5年度第55回長崎市障害者福祉懇談会が今年も開催され、鈴木市長をはじめ長崎市障害福祉課、選挙管理委員会事務局等をお迎えし、長崎市中心身障害者団体連合会の所属団体からの要望に回答をいただきました。当会からは「障害者理啓発研修について(継続)」の要望があげられ、「今後、市職員、学校職員、福祉部等の職員を対象とした研修や人権啓発研修に障害福祉研修を取り入れていきたい」と回答がありました。それ以外のA項目の要望としては「地域活動支援センターⅢ型補助金見直し(継続)」「同行援護制度のヘルパー研修(継続)」「障害のある人の選挙と期日前投票所(新規)」「難聴者・中途失聴者の音声認識環境の向上(継続)」「ハートセンターへのコミュニティーバスの運行(継続)」「補聴器の両耳支給(継続)」「新庁舎地下駐車場の精算機(新規)」「発達障害ネットワークの充実(新規)」があげられ、それぞれに回答をいただきました。項目によっては回答に対しさらに踏み込んだ意見のやり取りもあり、要望をかなえてほしいというそれぞれの団体の強い思いを感じました。またB項目には5つの項目があげられ、当会からは「ヘルパー利用の制度の実情」についての要望を上げ、書面回答をいただきました。次年度も継続して要望していきたいと思えます。



新年親子の集いが開催されます

3年間、分散開催が続いた育成会行事『新年親子の集い』が、今年は集合型での開催が決まりましたが、今年はずいぶん対面で開催できそうです。ただし、ハートセンター体育室が床の張替え工事で使用できないため、例年と会場が違いますのでご注意ください。

とき：令和6年1月6日(土) 13:00~16:00

ところ：長崎県総合福祉センター5F大ホール(茂里町3-24)

今年のご家族の参加もできます。ご家族の抽選券は利用者1名につき1枚とし、家族賞として賞品を用意させていただきます。

参加を希望される方は12月12日(火)までに啓発事業部にお電話、FAXまたはメールでお申し込みください TEL: 095-845-5677 / FAX: 095-841-9778

啓発事業の電話を一本化します

啓発事業ではこれまでハートセンターと大橋事務所でそれぞれ別の電話番号を使用していましたが、この度ハートセンターの電話を廃止し一本化することになりました。長く慣れ親しんでいたハートセンターの電話番号095-847-1290は12月より使えなくなります。会員活動、本人活動、行事、会費などのお問合せは大橋町の啓発事業部へお電話ください。

啓発事業部：Tel 095-845-5677

全国手をつなぐ育成会連合

九州大会が開催されました

第62回九州地区手をつなぐ育成会福岡市大会が10月8日、4年ぶりの参集型として開催されました。大会テーマは「親ある時も親なき後も、皆で支えるわが子の幸せ！」でした。当日はあいにくの雨にも関わらず、九州各地から多くの方が参加されコロナ禍前の大会の形に戻ったようで感慨もひとしおでした。

式典では今年度から全国手をつなぐ育成会連合会（全育連）の会長に就任された佐々木桃子会長の祝辞と長年会長を務められた

久保厚子前会長の大変温かく力強いエールを込めた挨拶がありました。続いて全育連の常務理事で事務局長の又村あおい氏が法制度のうごき（障害福祉サービスの動向、成年後見制度の見直し議論、権利条約の対日審査など）を踏まえ令和5年度中央情勢報告をされました。また全育連のうごきとして、久保会長退任・佐々木会長就任にともなう執行体制や令和5年度の重点的な取組み、各プロジェクトに関して説明がありました。

午後からの全体会では「親なき後の本人の暮らしの現状と課題について」というテーマで

- ① 保護者が一番不安に思うことや課題。
- ② グループホームでの生活状況と困りごとや課題。
- ③ 事業所運営上での困りごとや課題。
- ④ 知的障害のある特養入所者の生活状況。特養での生活上の困りごとや課題。

という4つの観点から話題提供がありました。その後全育連の又村常務理事から助言と解説がありました。高齢期を迎えた知的障害のある人に対する支援は介護保険との関係性や成年後見制度の見直しなど課題はあるものの障害分野の事業所と介護分野の事業所がお互いの知識を共有し研究しながらネットワークを強化していく必要があります、そのつなぎとして相談支援事業所の役割が大きいとまとめられました。

「知的障害のある子を持つ親として、不安が大きかったが具体的なお話を聞いて自分の頭の中を整理することができ悩みが軽くなった気がした。」と話されたパネリストのお母さんの思いに共感した人は私だけではなかったでしょう。4年ぶりの九州大会に参加して改めて対面し、直に声を聴くことの大切さを実感しました。この当たり前のことができるありがたさを感じながら福岡を後にしました。（文責：上田）

本人大会

本人大会へは観光コース7名、発表コースへ4名が参加しました。観光コースはチームラボ・フォレスト体験や明太子作り体験を楽しみ、発表コースは午前中はさいころトークで盛り上がり、午後は九州各県の代表10名の発表を聞き、その内容について質問が飛び交いました。



育成会フォーラムが開催されました

10月21日、歯科医師会館にて長崎県手をつなぐ育成会が開催する研修会「育成会フォーラム」が開催され、県内より約60名が参加しました。近年の親や本人の高齢化、会員減少などの状況を受け、前半は全国手をつなぐ育成会連合会副会長の小島幸子(こうこ)氏をお招きし、『あなたのそばに手をつなぐ育成会～楽しいところにしか人は集まらない～』というテーマで講演をいただき、後半は小島氏の話を受けて『どうする？育成会』と題し、グループ討議が行われました。

栃木県育成会の会長でもある小島氏は、栃木県育成会のいいところや困ったところを語りながら、全国各地の育成会の本音にも触れられました。「経済的、時間的に余裕がある人しか活動できない」「役員の世代交代が進まない」「情報が末端の会員まで届かない」「参加者がいつも同じ顔ぶれ」「会費が高い」「今の人は恵まれている…という話しを聞かされる」などなど聞いたことがあるものがいくつもあり、全育連副会長として全国の情報にも精通しておられる小島氏ならではのお話しがたくさんありました。

また成年後見制度への見直し議論へ全育連の代表が委員として参加したり、障害基礎年金理解のための学習会開催の仕組み作りなど、全育連としての取り組みも紹介され、育成会アピールのための材料となりそうです。育成会活動で大切なこととして「共感」「どんなときにもサポートがあることを伝える」「つながり」「地域の顔が見える関係」などを上げられました。

最後に、亡くなった2名のお母さんのお話をされ、その方たちへの思いこそが、ご自身が育成会を続けていく理由だと話されました。

小島氏の講演の後、グループワークが行われ、「育成会のよいところ」「育成会の困ったところ」「若い会員が入ってくるためには」という3つのテーマで意見交換が行われました。

多くの育成会が会員減少に苦慮する中、各グループ、会員や職員としての立場から様々な意見が出されました。



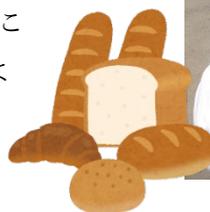
さんらいずに「ホイロ」が設置されました!

赤い羽根共同募金会様より助成をいただき、さんらいずにホイロ（パンをオーブンで焼き上げる前の最終発酵を行う発酵器のこと）を購入しました。これまでもさんらいずでは焼き菓子のほかにパンの製造もおこなっていましたが、発酵器がなくビニールをかけて日当たりのいい場所に置いたり、冬場はオーブンに水を張り温めることで発酵

器代わりにしたりと工夫しながらの製造でした。パン作りを始めてから試行錯誤、苦労しながらの製造でしたが、ホイロを手に入れたことで、これからは安定した発酵によりパンの量も質も期待できそうです。



これがホイロです



早速使ってます!

育成会バスハイクで柳川へ！

11月12日（土）に育成会バスハイクが実施され、バス2台、参加者59名で福岡県柳川市へ行きました。到着後1時間ほど、自由に柳川の街並みを散策し、有名な「柳川藩立花邸御花」と呼ばれる庭園や洋館、大広間などを見学する人やそこのギフトショップでゆっくり買い物をする人、北原白秋生家や記念館まで足を延ばす人もいました。残念ながら有名なウナギ料理は今回味わうことはできませんでしたが、おいしい昼食後は、今回の目玉水郷柳川の川下りです。

船が怖くて乗りたくないという人がいるのではないかとドキドキしましたが、無事



全員乗ることができました。陽気で元気な船頭さんの歌やおしゃべりに引き込まれ、また水の上を滑らかに走る爽快感をみなさん堪能されたようです。途中、橋の下を通るときには、全員で体を寄せ合って小さくなり、無事にくぐり終えたときは

歓声が上がりました。少々肌寒い日でしたが、川下りの頃は陽が差し気持ちよく川下りを楽しむことができました。「来年も来たいけど、自分が元気かなあ？」と言われるご家族もおられました。元気でもまた行きましょうと約束して解散しました。今年参加できなかった方はぜひ来年ご参加ください。

心身連50周年記念式典が開催されました

当会も所属する長崎心身障害者団体連合会が設立50周年を迎え、10月28日（日）にブリックホール国際会議場にて、鈴木市長をはじめ来賓をお招きして記念式典が開催されました。また記念講演として体操の金メダリスト内村航平氏のトークショー、アトラクションとして保育園の園児による龍踊やバンビーズやバタフライのダンスも披露されました。また、当会の谷理事長が表彰を受けられました。



おしらせ

フラワーアレンジメント・書道

フラワーは第2、第4土曜日の10:30、書道は第4土曜日の13:00から実施中です！
フラワーは1回1400円、書道は1回500円です。

社会福祉法人
長崎市手をつなぐ育成会 広報部
長崎市大橋町19-19
文教カテリーナ1F
Tel:095-845-5677

E-mail:tewotunagu@hi.enjoy.ne.jp

12月の定例会

日時：12月22（木）10：00～12：00 「年忘れおしゃべり会」

生活支援センター会議室（大橋）

定例会へのお申し込み、お問い合わせは啓発事務局 TEL845-5677 まで

12, 1月の本人活動「スマイルくらぶ」の予定

- 12/3(日)「映画」
9:30～14:30,参加費 500 円+実費
- 12/9(土)「フラワーのみ」
10:30～11:30,参加費 400 円+実費
- 12/10(日)「ワンスプレートランチ作り」
9:30～14:30,参加費 500 円+実費
- 12/17(日)「クリスマスケーキ作り」
13:00～15:00,参加費 400 円+実費
- 12/23(土)「クリスマス会&書道」
9:30～14:30,参加費 500 円+実費
- 12/24(日)「野母崎散策①」
9:30～15:30,参加費 600 円+実費
- 12/28(土)「フラワーアレンジメントのみ」
10:30～11:30,参加費 400 円+実費
- 1/7(日)「新年会具雑煮作り」
9:30～14:30,参加費 500 円+実費
- 1/13(土)「フラワー&ゲーム」
9:30～14:30,参加費 600 円+実費
※フラワーのみ 10:30～11:30,参加費 400 円+実費
- 1/14(日)「皿うどん作り」
9:30～14:30,参加費 500 円+実費
- 1/21(日)「ぜんざい作り」
13:00～15:00,参加費 300 円+実費
- 1/27(土)「フラワー&書道」
9:30～14:30,参加費ひとり 800 円+実費
※フラワーのみ 10:30～11:30,参加費 400 円+実費
※書道のみ 13:00～14:00,参加費 500 円
- 1/28(日)「野母崎散策②」
9:30～15:30,参加費 600 円+実費

★各活動には定員があります。お申し込み、お問い合わせは啓発事務局まで

☎ 095-845-5677

メール登録いただければ定期的にご案内をお送りします。お申し込みや確認も便利です。

timecare@nagasaki-shi-ikuseikai.jp